

http://www.minamih.net/



10・6・12 (土)
南NEWS NO12

Let's be positive!!
Let's not be negative!

合宿の後、5・6年生は葉山のお友だちとホームステイの交流があります。8月7日(土)は磯遊びを楽しみ、明るる8日は(日)は、“海人カップ”の大会に参加します。毎年、神奈川県ベスト8クラスが参加しています。冬は八王子で、高尾山日溜まりハイクとホームステイ、翌日の南招待です。

Cクラスの鳥取コーチもかつて南の子どもとしてこの交流に参加して「とても楽しく得難い体験をした」と言っています。伊藤コーチの3人の息子さん達も「楽しい思い出ができた」と言っています。

今年もみんなで参加して楽しみましょう、遠く広く交流をして何かを学んでほしいと思います。

夏に参加すると、冬のホームステイを受け入れなくてはいけないのでは、うちはダメだから、夏も参加させないというのはなしにしてください。矢上の家もホームステイを受け入れますが、できる人、やれる人、やりたい人ができる範囲でが南の原則です。まず、参加して楽しみましょう。

南の5・6年生の子どもたちならば誰でも参加資格があるのです。みんな一人ひとりがいてくれるから練習も試合もできるのです。南の活動があるのです。大切ななくてはならない仲間なのです。様々な理由があると思いますし、南を優先してなどと決して思いません。三間の充実のため、どの行事にもできる範囲で仲間みんなが参加して楽しみ、得難い体験をしてほしいと思うだけなのです。

マイナス思考ではなく、心閉ざすクローズドマインドではなく、プラス思考、心ひらくオープンマインドでいきましょう。自分自身に言い聴かせています
文責 矢上

退職する最後の年、最後の学校、3学期の全校朝会で子どもたちに次のようなことを話しました。1年生でも理解してくれた子がいました。学校便りに掲載したものです。

☆遠く・広く・深く

矢上 健一

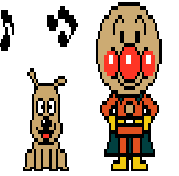
1月の全校朝会で、「サッカーの名選手は常に遠く広くピッチ全体を見渡して状況判断をしています。だから、試合を決める素晴らしいパスを出せる」と話しました。

2月の全校朝会では、1945年の3月から6月にかけての沖縄での地上戦、読谷村での話。「チビチリガマ(洞窟)に隠れていた住民は『鬼畜米英』の言葉を信じ、『アメリカ人につかまったら何をされるか分からない』と自決を選択しました。そこからすぐ近くにあったシムクガマでは、アメリカ帰りの青年がいて『アメリカ人はそんなに悪い人ではない』と言ったので全員が投降して助かりました。アメリカで学んでいた青年がいたから1000人も人が助かったのです」と話しました。(18年前に私は沖縄を訪れ、チビチリガマ、シムクガマに入り、チビチリガマで息子さんを亡くして自分は生き残った知花カマドさんのお話を聴きました)



3月の全校朝会では、98円で買って同じ日に植えたノースポールという鉢花、大小一つずつを見せながら、「同じ大きさの苗を同じ日に植えたのに何故こんなに育ち方が違ってきたのかな」と質問したら、「大きい鉢のほうがたくさん土が入っていて、広く深く根がはれるから大きく育った」と答えてくれました。

昨年8月にドイツを訪れ、ベルリンの小学校の先生と話したことに触れながら、「実際に沖縄に行ったり、アメリカやドイツに行ったりすることはできないけど、読書をすればどこの国にも行けるし、外国の人の考えを知り、学ぶこともできます。たくさん本を読んで、遠く・広く・深く学んで、自分を大きく育ててください。地域の行事に参加することも、友達と協力して何かにチャレンジすることもいいですね。」と話しました。来年度も、どの子どもも大きく育ててくれることを願っています。



Jrユース惜敗!

第33回 拓大杯(6/6) レポート

南Jrユース監督 松田コーチ

“最後まで勇気をもって闘った12人”

○拓大杯 1回戦 南八王子 2-3 東京ウエスト

南の中学生が素晴らしい試合を見せてくれました。

部活の試合と重なり、3年生が3名、2年生が9名だけの1回戦となりました。

明らかに苦戦が予想されましたが、高橋強君が相手2人をかわし何と先制ゴール!

前半1点を返され同点で後半へ突入。ボールポゼッション(支配率)は圧倒的に相手なので、インターセプト(ボールカット)からカウンターを狙(ねら)う作戦でした。何度もピンチを久保君や上倉君が救い、GKの瑛大君は信じられないファインセーブを連発し、チームの皆に勇気と団結力を与えました。久保君のドリブルとキック力が相手バックラインの押し上げを防いでいました。そして、阿部君のカットしたボールを強君が持ち込みシュート!入っていれば勝ち越しゴールだったのに!残念。しかし、時間の経過とともに足が止まり、速いパス回しから2点を奪われ、終了直前に1-3とリードを許しました。

ここからがすごかった。負傷した小川君も痛みをこらえて最後までプレーを続け、高津君も必死で相手ボールを追いまわしました。そして、阿部くんが3人を振り切り意地のシュート!1点差まで迫(せま)りました。この1点はとても重要な意味を持ちます。2-3まで迫った事で、「最後まであきらめない気持ち」を皆で確認することができました。そして、途中の失点が「もったいなかった」と皆が感じたはずです。つまり、失点の原因を再確認し次の試合に生かす事ができる・・・そんな1点なのです。2点差ではなく、「1点差で残念だった」「悔(くや)しかった」と感じた事が次へのステップになると私は信じています。

今日の60分で12名のプレーヤーは素晴らしい経験と勉強をしたと想います。これからも強い気持ちと仲間を思う優しい心を忘れずにサッカーと勉強に励(はげ)んで欲しいと思います。お疲れさまでした。